

事務事業評価表 平成24年度

政策 明日につながる産業の振興  
 施策 商業の振興  
 基本事業 観光・イベントによる賑わいの創造

事業名 **江別観光協会補助金**

[0082]

部名	経済部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	商工労働課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 江別観光協会
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 近隣市町村と協力し、観光情報の発信や観光客の誘致に努め、観光客の市内への入込み数を増やす。 江別の特産品をイベントを使って道外・道内に向けてPRしていくと同時に、観光プロモーションを展開し、市内への入込み数を増やす。
手段	(事務事業の内容、やり方、手段) 江別観光協会への事業費補助

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	江別観光協会会員数	会員	156	170	168	180
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	1,400	1,200	1,200	1,287
活動指標2						
成果指標1	観光協会事業件数	件	8	6	7	12
成果指標2	観光客入込み者数	人	805,092	749,221	749,900	800,000
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	1,400	1,200	1,200	1,287
正職員人件費 (B)		千円	4,149	5,642	6,020	5,665
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		<b>千円</b>	<b>5,549</b>	<b>6,842</b>	<b>7,220</b>	<b>6,952</b>

費用内訳	
23年度	負担金 補助及び交付金 1,200千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	不況による会員の負担感の増。 団体旅行から個人旅行へのシフト。 札幌を中心とする広域圏での誘客の取組み。
--------	--	-------------	--

## 23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

### (1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・  
根拠は？

賑わいの創造は、様々な活性化につながるため、その点では妥当。大規模観光産業がない当市においては、行政がサポートすることもやむを得ない。

### (2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

従来型の観光資源に乏しい当市ではおのずと限界があるため、直接上位の基本事業への貢献度は大きいとはいえない。

### (3) 計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・  
根拠は？

入り込み人数は、天候などにより野幌森林公園の入り込み数に左右されるため、年度により増減がある。近年の経済状況から脱会する会員がいる一方で、積極的なPR活動の結果、この効果を期待する飲食店をはじめとする新規入会者が多いことや、ホームページのアクセス数が伸びていることなどから、一定の成果があがっているものと考えられる。

### (4) 成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

観光協会の加入者増は、営業活動や宣伝により増やすことは可能。伸び悩む経済情勢の影響で脱会者が相次ぐ一方で、観光協会のPR事業の効果に期待する飲食店等の新規加入者も多く、会員構成の変化による組織の活性化が期待される。近年の補助金削減により、活動内容には限界があるが、マスコミやインターネットの活用により効果を上げることは可能である。

### (5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算 + 所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・  
根拠は？

事務局の外部化が考えられるが、現実的には受け入れ先がなく難しい。補助金額は本来市の観光行政が担うべき部分の委託分とも考えられ、パンフレットの作成やホームページの設置などにかかる費用など最低限の水準となっているため、これ以上のコスト削減は難しい。